

高等学校・特別支援学校 7月15日(火)開港記念会館

各グループで話し合われたこと まとめ



協議① テーマ「いじめをしない自分であるために～つながる、広げる、いじめの未然防止の輪～」から事前の話し合いで自分自身が感じたことや、今日の各校からの報告を受けて考えたこと。

- ・私の学校では「日常的に行えるいじめ防止策」という観点でアイデアを考えてきたので、ピンクシャツ DAY などの特定の日はいじめについて考える時間にするアイデアはとてもいいと思いました。
- ・色々な発表を聞いていじめを無くすではなく、とにかく1人でもいいから助ける考えは大切だと思った
- ・いじめについての話し合いが全体で進み、割と「いじめ」という概念が浸透してきた今、止めるべきは悪意のあるいじめではなく、悪意はないが相手に嫌な思いを残してしまっている過度ないじりを抑えるべきなのだと改めて感じた。

協議② 「いじめをしない自分であるために」について考えたこと。

- ・いじめを防止する上で、大事なことはお互いの価値観を尊重し、自分の発言を相手がどのように受け取っているかを考えること。また、その意識をたくさんの人に持ってもらう企画や、イベントなどが効果的だと感じました。
- ・相手に嫌なことをしないのに加えて、自分が嫌なことを相手に伝えることも大切になってきて、相互的な価値観の共有が非常に重要であると考えた。
- ・この子ども会議を通して、いじめは悪意を持ったもの以外にもあると思いました。そして、いじめは加害者も被害者も自覚がない場合があり、相手を知り、そして自分を知ることが大事だと思いました。
- ・もしかすると自分の行動が、いじめになってしまうことを改めて考えさせられました。価値観の違いや物事を断りづらい環境にいと、いじめになってしまうことがあると思ったし、誰でも気軽に相談できる環境を整えることが大切だと思いました。
- ・いじめをなくす大きな方法は2つあると考えました。1つは自分の行動と定義を照らし合わせて確認する。もう1つは第三者が勇気を出して止めることだと考えます。
- ・いじめを行っている人達だけでいじめを無くすのは難しいから、第三者の存在を大事にして、いじめと思われたらいじめだと言うことを知って、自分はまずしないことが大事だけど、止めることが本当に大事で勇気があることだと分かりました。

中区 8月27日(水) 立野小学校

各グループで話し合われたことの「まとめ」



実践発表（中学校ブロックを混ぜて）：各ブロックで話し合ったこと、取り組んでいること

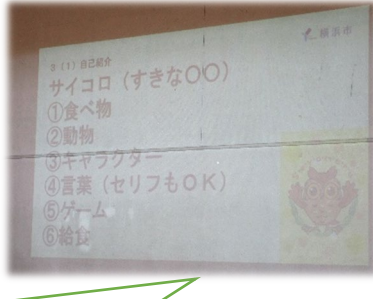
- ・「ピンクシャツデー」の意義を生徒に伝えて、Tシャツやリボンなど、ピンク色のものを身に付けて広める取り組みをしたり、ファッションショーを企画したりしている。
- ・多言語でのあいさつ活動を行ったり、他学年との交流活動を充実させたりするなど、人との関わりを意識した活動を取り入れている。
- ・「夢ポスト」「未来箱」「わくわくポスト」等誰もが自分の意見を言える環境を作ったり、自分から意見を言える雰囲気づくりをしたりしている。
- ・ニコニコになれた出来事をボール型の紙に書いて掲示する「にこにこボール」という取り組みをして、掲示した人も見た人も笑顔になれるように活動している。

まとめ（中学校ブロックに戻って）：他ブロックの発表を聞いて、今後学校で生かせること

- ・今日の会議で出た意見をもう一度学校にもち帰り、今後につなげられるように生徒会として取り組んでいきたい。
- ・はじめは難しいテーマだと思ったが、話し合いを重ねる中で身近なところでもできることはあると思った。
- ・今日の会議で様々な活動が紹介されたが、「なぜその活動をするのか」を丁寧に説明しながら進めることが大切だと感じた。



各グループで話し合われたこと まとめ



まずはアイスブレイク、サイコロで好きな○○を発表しましょう。

グループ協議 「いじめをしない、自分であるために」各中学校ブロックや校内で話し合ったことや、取組について発表しましょう。

- ・まず、いじめとは何なのかについて話し合いをしました。
- ・ネット上の言葉の暴力もある。いじめだよビームで、いじめだと気付ける。
- ・いじめをしない雰囲気づくりが大事、ふわふわ言葉で話したり、具体的ないいところを伝えあったりしました。
- ・お互いに声を掛け合える雰囲気だといい。コミュニケーションが良くとれる。
- ・スローガンを考えて発表して、みんなで意識できるようにしました。

各ブロックで協議 他のブロックの発表を聞いての話し合いをします。

次に、自分の学校全体への伝え方について話し合いましょう。

- ・三色団子の取組とか、スローガンを作って意識できるようにするのがいいかもしれない。
- ・近い学校でペア交流を行ったり、外国につながる友達もたくさんいるから、いろいろな言語で挨拶できるようにしたりすると、コミュニケーションが広がるかも。
- ・誰でも不満に思っていることはある。たまった不満を吐き出せる場所があってもいいかもしれない。
- ・アンケートを実施して、みんなが意識できるようにしてもいいよね。
- ・お互いにいいところを伝え合おうと、自己肯定感が高まって、ポジティブになれる。
- ・意見交換できる場を作ってみようと思いました。



各グループで話し合われたこと まとめ



【グループ協議①】SNS上のすれ違いによって起こるトラブルの例を基に意見交流をする。

- ・当事者同士で話せば解決するものも、コミュニケーション不足でトラブルになってしまうことも。
- ・言葉が足りずすれ違ってしまい、トラブルに発展してしまう。
- ・メッセージを送信する前に、一度、相手の立場になって考えればいいのか？
- ・文字だけだと伝わりにくいことも、絵文字を使うと伝わる場合もあるかも。
- ・自分の言葉を付け足すと気持ちが伝わる。

【グループ協議②】

「いじめをしない自分でいるために」～つながる、広げる、いじめの未然防止の輪～
テーマをふまえて、中学校ブロックでどのような取り組みができるのかを考える。

- ・いじめのもとをつくらない ・相手のことを考える ・直接話すことが大切。SNSで済ませない。
- ・他への呼びかけよりも、自分が変わらなければならない。 ・見て見ぬふりをしない
- ・友達だからこそ言えない、ではなく、友達だからこそ言う ・大人を頼る ・素直に謝る
- ・言動について多様な見方をしてみる（相手からどう見えるか？相手はどう受け取るか？）
- ・かわわりを生むイベントを行い、つながりをつくる（遊ぶ→仲良くなる→争いがなくなる）
- ・挨拶運動にプラス！言やジェスチャーを取り入れる。 ・自分の言葉に責任をもつ
- ・身に付ける物の色にも性別の先入観や偏見がある。 ・言葉遣いを大切にする
- ・小学校、中学校、高校のどの年齢でも等しいいじめが問題となっている。全ての学校で何か1つでも取組ができれば、意識が変わっていくのではないかな。
- ・いじめの定義があやふやになっている。みんなが分かっていることが大事。
- ・いじめが起きてからではなく、起きそうになった時に何ができるかが大事。



神奈川区

8月28日(木)

神大寺小学校

各グループで話し合われたこと まとめ



①グループごとの協議

「『いじめをしない自分であるために』自分たちにできることを考えよう」

- ・ 悪口を言っている人がいたら便乗するのではなく、相手の良いところを見つけて、その良いところを回りにいるみんなに伝えていくようにする。
- ・ いじめは集団でやることもあるので、自分が意識することも大切だけど、みんなで意識していくことが大切。委員会活動などを通して伝えていくのも良いと思う。
- ・ 学級でみんなの良いところを認める時間がある。相手の悪いところを考えるからいじめがおきてしまうのではないだろうか。だから、みんなの良いところを認めることをやっていけるとよい。

②中学校ブロックでの協議

「話し合った内容を、学校(ブロック)で具体的にどのような取組につなげていけるだろう」

- ・ 「いじめ防止対策推進法」を掲示するなどして、いじめに対する共通理解をもつことが大切だと思った。
- ・ 自分が考えていたことは、個人にできることだったけれど「よい雰囲気づくり」という目標にすることで、周りにも伝わっていくから、その目標に向けて自分も行っていこうという考え方に変わった。
- ・ いじめの定義を全員が理解する必要があると思った。そのためにも伝え方を工夫し、興味をもって聞いてもらえるようにすることが大切。だから、方法を慎重に検討していきたい。
- ・ 意見共有の中で他の学校から「委員会をつくる」という案があり、自分は期間で行う活動を考えていたから、継続してできるような活動を考えていきたい。



南区 8月28日(木) 南区役所多目的ホール

各グループで話し合われたこと まとめ

協議① 各ブロックで話し合ったり、取り組んだりしてきた中で、大切だと感じていること

- ・一つの行動で相手が嫌になったり自分の行動で相手に影響を与えたりするのが人間。
- ・中学生、高校生は相談がしづらい年ごろ。大人ではなくても友達でもよい。相談しやすい環境づくりが大切。今ここで話していることもそう。生徒会で行うなどもある。
- ・嫌な思いを心にとどめると攻撃的になってしまうこともある。成長する中で、大人には言いづらい相談もある。友達でもよいので言いやすい人に相談をすることは大切。
- ・自分で考えるのもよいが、相談することで心がすっきりするので良い。
- ・「相手を理解する」ことで考えが変わったり自分の行動を振り返ったりすることができる。
- ・自分と違うと気になってしまう。そこで群れていじめにつながってしまう。違いを見つけたらそういう人もいるのだとよく理解することが大切。
- ・理解をしなくてもよいからそういう意見もあるのだと受け入れることが相手も自分も嫌な思いをしないためには大切だと思った。



協議② 今後の取り組みについて

○話し合い活動等をする際に、自分で決めたニックネームを使う

- ・初対面の人が話しやすいと思い中学校ブロックで行った。
- ・ニックネームをつけてもよいし嫌な人は本名でもよい。

○誰にでも相談できる環境づくり

- ・「ごめん」「ありがとう」を素直に言うのは難しい。日頃からそういう言葉を言えるような関係づくり。

○イライラしたら6秒耐える

- ・6秒耐えるのは難しいと思ったが、耐えることができたなら分かり合えるのではないかな。
- ・取り組みたい。カッとなって感情的になるが、冷静になることができる。話し合いが進むと思う。
- ・6秒耐えることで相手の言動の意味が分かったり、自分の感情を抑えたりする時間になる。

○傍観者にならない→わかる言葉に「見て見ぬふりをしない」「見ただけで終わらせない」「すぐ止めに入る」

- ・一人では勇気が出ない。仲間を増やしていじめは良くないことを伝える。
- ・なぜみんな止めないのか。自分がいじめられるリスクがある。そのリスクをどのように変えていくのか

→よくないと思っている人が団結することが大切。団結すると力も強くなる。

→いじめる側にもグループがある。学校としてどのように対応するのか。

→様々な人と話をして学年を越えてよい雰囲気をつくる。その上で団結できればいじめがなくなっていく。

→子どもだけで解決しようとしすぎ。ヒートアップしてしまう。先生は協力してくれると思う。大人の協力を得ないのは違う。相談しづらいことはあるかもしれないけれど、先生と一対一で話ができる環境をつくってくれると話がしやすい。

保土ヶ谷区 8月28日(木) 保土ヶ谷小学校

各グループで話し合われたこと まとめ



テーマ「いじめをしない自分であるために～つながる、広げる、いじめの未然防止の輪～」について
「一人一人ができること」「学校でできること」「ブロックでできること」(やっていること)

○「一人一人ができること」

- ・相手のよいところをたくさん見つける。言葉遣いに気をつける。ダメと勇気をだして伝える。自分がいわれていやなことはいわない。思いやりをもって行動する。人の意見を尊重して自分の意見を言ったり行動したりする。いじめの定義について理解し、いじめがどれだけいけないことなのか考える時間をつくる。

○「学校でできること」

- ・あいさつ運動、マスコットキャラクターをつくり、雰囲気をよくする。「互いのいいところや違うところを認め合おう」というスローガンを設定し、スタンプラリーやあいさつ運動を実施。フワフワ・チクチクの木を作成。ありがとうデーをつくる。

○「ブロックでできること」

- ・いじめを防止するために、小学校・中学校でポスターをつくり、張る。あいさつ運動でコミュニケーションを取る。学校同士でコラボした動画をつくる。近くの学校とスポーツ交流会を実施。

「横浜子ども会議での話し合い」について、感じたことや考えたこと

- ・横浜子ども会議に参加して、他の学校の人の意見を聞き、自分にはなかった考え方に気づくことができました。小中学生が安心して過ごすためには、一人ひとりの声や行動が大切だと感じました。これからは横浜子ども会議の中で学んだことを意識し、一人ひとりから学校、ブロックごとでできることに取り組んでいきたいです。
- ・横浜子ども会議で話し合って同じ取り組みをしても違う取り組み方や、違う理由で行っていて、これから挨拶運動を行なっていくから参考になった。他にはいじめをなくすための動画を作ってみるにイジメのことを深く知ってもらう事が大切だと思って、これからそういうのもやっていきたいと思う。
- ・いじめの未然防止には引き続き周辺他校との協力が必要不可欠ではないかと感じた。
- ・グループの司会者が意見に共感してくれたり、優しくったからすごい話しやすかった。
- ・各校やグループで話し合ったことを出していくと、自分の考えには無かった捉え方や方法が出てきて、これからの活動にすごく役立つなと思いました。

各グループで話し合われたこと まとめ



協議① 「いじめをなくすために、私や学校、中学校ブロックでできること」について

- ・自分たちのブロックの取り組みが間違っていなかったと思いました。一方で、他のブロックの取り組みの良いところを合わせて、来年、後輩たちに引き継ぎたいと思った。
- ・学校生活を笑顔で過ごすことができれば、いじめがなくなる第一歩になるのでは？生徒会活動で学校が楽しいと思える活動を提供したい。
- ・ブロックの発表はそれぞれ違うけど、相手や周りの人との関係性をよくすることは同じでした。
- ・定期的にいじめについて話し合いをすることが大切だと思う。「一人ひとり」「個性を認め合う」というワードがそれぞれの学校が発信していたので、自校でも大切にしたいと思った。
- ・自分の学校で「いじめ」とは何なのか、学校が取り組んでいることを知ってもらうため広報誌を作成し、学校だけでなく、地域や保護者にも発信したいと思った。

協議② 「いじめ防止対策推進法」に示されている『いじめの定義』を読んで、どんなことを感じたり、考えたりしたか

- ・「いじめ」が当事者たちの判断に任せられるものなら、第三者から見て「いじめ」と感じてても本人が大丈夫なら OK ということになってしまうのでは？第三者として、被害にあっている人を助けるために寄り添いたい。
- ・知らないうちに加害者になってしまうのでは？と感じました。悪意はなくても相手がどうとらえるか考えることも大事だし、こういうことはなくすことができないから、相互理解が必要だと感じた。
- ・「いじめ」はデリケートな問題だと改めて感じた。定義を読んでも明確な基準というものはなく、目に見えないもので「いじめ」が成り立ってしまうと考えた。だからこそ、見えない「なにか」が始まる前に努力する必要がある。なので、一人ひとりが「楽しい」と思えて、「学校に行きたくない」と思えない学校を作りたい。まずは、楽しむことを目的とした活動で、「仲間」とか「友だち」を自分の視野に入れられるようにしたい。

昨年度は天候の関係で
開催出来なかったため、
今年度は念願かなっての
全校集合となりました！

各グループで話し合われたこと まとめ

前半は実践発表、
後半はグループ協議を行い、
最後に全体共有をしました。



前半：実践発表 各校の実践の発表と共有

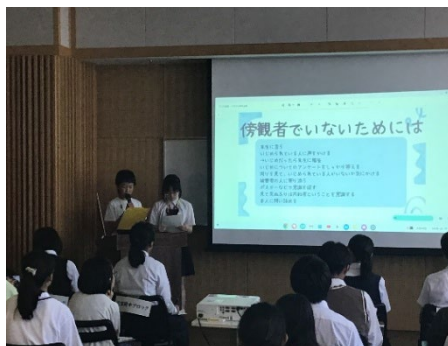
- ・ 「ありがとうオリンピック」の反省を活かして話し合いをした。ポスター制作やクイズ制作、話し合いのポイントなど様々なアイデアや意見が出た。
- ・ アンケートを作ってクラスルームで全校に配信した。その結果から、人とのつながりがあると学校が楽しくなるのではないかという結果が分かり、そのためにどうするかをみんなで話し合った。
- ・ アイビー運動やオアシス運動を通して、あいさつや言葉遣いの大切さを実感。今後も取り組んでいきたい。
- ・ 生徒会で「いじめ」と「いじり」の劇を実際に演じて考えてもらったことは効果があった。

後半：協議「全国いじめ問題子どもサミット」より～考えよう！ 自分だったらどう行動する？～

- ・ 自分と他人の違うところを大切にする。相手の個性を受け入れる。
- ・ 情報をうのみにせず、確認する。周りに流されないという強い気持ちをもつ。
- ・ 相手の話をしっかり聞く。決めつけない。
- ・ 相手の気持ちを考えながら行動に移す。
- ・ 自分がされたいやかどうか、という気持ちを常に持ち続ける。そうすれば、大きなことには発展しないと思う。
- ・ SNSを使うのではなく、直接伝える。
- ・ 周りの人に、なんでみんな無視してるの？と訊く。
- ・ 自分が原因でいじめが始まったとは気づかないこともある。どんなことも0から100にいきなりなるわけではないので、途中で止められなかったのは何がいけなかったのかと考えることも大切。



各グループで話し合われたこと まとめ



【実践発表】「いじめをしない自分であるために」～つながる、広げる、いじめの未然防止の輪～

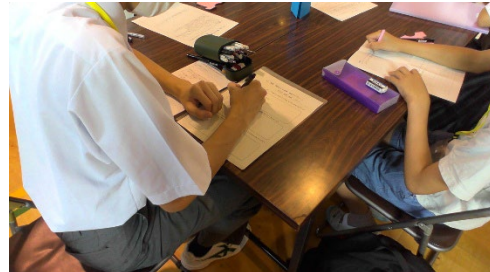
- ・ いじりといじめはなにが違うのか・・・
- ・ いじめ防止川柳を全校で募集し啓発
- ・ 学年を越えて誰とでも交流を深める
- ・ 取組を全校に広げるバトン
- ・ いいところ探しや挨拶ビンゴの実施
- ・ スローガン作成「NO MORE 人権泥棒」
- ・ 傍観者でないためには・・・

【協議】発表を受けて、自校で活かせる取組について

- ・ レク要素やゲーム感覚で楽しみながら啓発できる企画をしたい
- ・ 地域の方を交えた活動ができるとよいな
- ・ (いじめについての?) 劇などの目で見てわかるものを作るのもよいかも
- ・ 縦割りの活動を中学校でも取り入れてみたい
- ・ スクールカウンセラーと連携した企画や交流
- ・ いじめ防止川柳は自分の学校でもやってみたい
- ・ 世界の言葉で挨拶している学校の取組がいいな
- ・ 個性や一人一人の気持ち伝わっていくことが大事だと思った
- ・ ピンクシャツデーの取り組みなどを通して、自分の行動を振り返ることも大事(高校)
- ・ 偏見で物事を見るのはよくないなと思った
- ・ 全校で関わり合える活動をしてみたい



各グループで話し合われたこと まとめ



協議① いじめそのものについて考える「なぜいじめは起きるのだろうか」

- ・ からかうだけのつもりでも、された方は、本当は傷ついている。
- ・ 自分を守るために、苦手な人と距離をとることもある。
- ・ 小さなケンカやトラブルから発展して、仲直りしないままになってしまうことでいじめが起きてしまうと思う。
- ・ いじめている側は楽しいと思っていても、いじめられている側は楽しくない、つらいと思っているかもしれない。
- ・ 人によって感じ方が違うからいじめは起きると思う。

協議② いじめの未然防止について考える「自分にできることは何だろうか。」

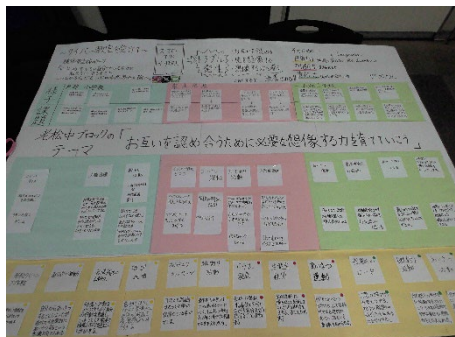
- ・ 人から嫌なことされても、やり返してやろうという気持ちにならずに話をしていきたい。
- ・ 小学校と中学校でいろいろな意見が出た。小学校のちくちく言葉をやめて、あったか言葉を広げたいという意見がよかった。中学校でも広げていきたい。
- ・ 日ごろからいろんな人とコミュニケーションをとることが大切だと思う。
- ・ 行動する前に一度考えることが大事だと思う。
- ・ 相手がどう思うか、想像をはたらかせて一つひとつの行動を大切にしたい。

最後にピンクシャツに一人ひとりの“いじめ”に対する思いを書きました！



西区 8月29日(金) 西公会堂

各グループで話し合われたこと まとめ



①各ブロックの実践発表：各ブロックで話し合ったこと、取り組んでいること

- ・ いじめ防止や人権意識の向上を目指して、ポスターや動画の作成、あいさつ運動などを通じて、思いやりや協調性を育む活動を行っている。
- ・ 読書週間やカードゲーム、ビンゴ、人形劇など、児童・生徒が主体的に参加できる工夫を凝らした取組が進められている。
- ・ アンケートや標語づくりを通じて、いじめの定義や自分と相手との「嫌なライン」について考える機会が設けられた。
- ・ 縦割り活動や他学年との交流を通じて、学年を超えた関係づくりやお互いを認め合う姿勢を大切にしている。

②協議 テーマ「学校やまちの人とできることを考えてみよう」

- ・ 相手のことを理解しようとするのが大切。理解できなかったとしても理解しようとするれば未然防止につながると思う。
- ・ アンケートを実施したり、朝会などで発表したりして、いじめといじりの定義を学校全体で共有したい。
- ・ 縦割り活動を充実させることで、みんなが安心できる環境をつくりたい。コミュニケーションを積極的にとったり、自分から動いたりすることが大切。
- ・ いじめ防止につながるようなポスターやマンガなどをつくって広めていきたい。
- ・ 学校だけではなく、地域の活動の中でもいじめについてふれて、一緒に考えていきたい。



旭区 8月29日(金) 旭公会堂

各グループで話し合われたこと まとめ



①グループ協議：「一人一人や学校や中学校ブロックで、できること、やっていること」

- ・笑顔で話すことが大事。お互いに笑顔で話すことで、相手と仲良くなれる。
- ・あいさつはどこでも大切。あいさつをすると気持ちがよくなるし、関係もよくなる。
- ・ちくちく言葉ではなく、ふわふわ言葉を使うようにしている。
- ・同じ学年の子だけでなく、他の学年の子とも関わるようにする。他学年と関わると安心できる。
- ・相手の意見を否定したり、自分の意見を押し付けたりしないようにしている。
- ・されたら嫌なことについて話し合い、一人ひとり、自分から嫌なことをしないと考えを伝える。
- ・自分自身もいじめをしてしまうことがあるという自覚をもつ。
- ・「助けて」と言いやすい環境を作る。

②グループ協議（中学校ブロック）：「自校や中学校ブロックで活かせるものは何か」

- ・まずは相手の気持ちを考えることから始まる。
- ・いじめを見た人は、「自分は無関係」という意識をもたないようにする。
- ・SNSについて、相手にメッセージを送る前に、相手の気持ちを考えてから送るようにする。
- ・相手のいいところを見つけるようにする。
- ・昼の放送で、あいさつをした人や、あいさつをしてくれた人の数を伝える。
- ・身近ないじめはいろいろある。「こんなこともいじめ」と知ることが大切。
- ・ポストを作り、お悩み相談ができるようにする。
- ・ここで話し合ったことを、ホームページ等で地域に発信していくことが大切。



中学校ブロックごとの発表



☆中学校ブロックごとの発表では、「自分自身」と「自分の学校」をふりかえり、いじめ未然防止に向けてブロックで実践したいことを各校の代表児童・生徒たちが発表しました。

＜「いじめ未然防止の輪」を広げるために実践していきたいこと＞

- | | | | |
|----------|-----------|------------|---------------|
| ・あいさつ運動 | ・ありがとう週間 | ・ポスター掲示 | ・ふわふわ言葉キャンペーン |
| ・話し合い活動 | ・人権週間 | ・クローバーカード | ・クラスレク、学年レク |
| ・なかよし活動 | ・スマイルペアデー | ・異学年交流 | ・人権劇 |
| ・学校保健委員会 | ・アンケート | ・たてわり活動、集会 | など |

各グループで話し合われたこと まとめ



☆協議では、小学生と高校生が「いじめ」について一緒に考えたり、異なる学校・学年の仲間たちとテーマについて意見を交換し合ったりする姿が見られました。

協議① いじめそのものについて考える「なぜいじめは起きるのだろうか」

協議② いじめの未然防止について考える「自分にできることは何だろうか。」

- ・「いじめ」をしている人は「いじめ」をしている自覚がないと思う。
- ・「いじめ」をしているのに、笑っていたり深刻に考えていなかったりする人がいる。
- ・いじめられた本人がいじめだと思ったら「いじめ」っていうのはわかるけど、第3者目線でいじめだと思ったら「いじめ」というのも必要だと思う。
- ・どこからが「いじめ」なのかわかっていない。いじめに対する意識を変える必要がある。意識改革！
- ・相手の気持ちを考えること、気持ちを伝え合うことがいじめ防止につながる。

戸塚区 8月29日(金) 戸塚区役所大会議室

中学校ブロックごとの発表



☆中学校ブロックごとの発表では、いじめ未然防止に向けてブロックで実践したことを各校の代表児童・生徒たちが発表しました。

＜「いじめ未然防止の輪」を広げるために実践していったこと＞

- ・あいさつ運動を積極的にすることで明るい雰囲気をつくり話しやすい環境をつくる
- ・いじめをしない・させない・見逃さないためにクラス内の共同作業を増やす
- ・いろいろな人の良いところを見つけてる活動「ハートフルレター」
- ・「言葉の可視化運動」で良いことを言った・言われた数を可視化して目指す姿を考える
- ・「自分と向き合うノート」を活用し、先生と関係を深め、相談しやすくする
- ・「ピンクシャツプロジェクト」「それだめだよミーム」いじめと言いやすい環境づくり
- ・「ハッピーボックス」「オープンボックス」「ひらどーなつ」相手の気持ちや個性を認める活動
- ・生活向上委員会であいさつ運動・福祉委員会で地域のボランティア活動
- ・大正意見箱を設置して、いじめに対する考えを深めるために質問し、意見を募集する
- ・目と目があったら元気にあいさつ・ハイタッチ運動・生徒会新聞・全校全体レクの企画
- ・ぽかぽかBOX・いじめ撲滅サミットで「いじめをなくすために一人ひとりができること」を考える
- ・体育祭やリーダー合宿・対話集会・演劇祭・地域清掃などの行事や活動を紹介

各グループで話し合われたこと まとめ

☆協議では、小学生と中学生、高校生が「いじめ」について一緒に考えたり、異なる学校・学年の仲間たちとテーマについて意見を交換し合ったりする姿が見られました。

- ・いじめられた本人がいじめだと思ったら「いじめ」っていうのはわかるけど、第3者目線でいじめだと思ったら「いじめ」というのも必要だと思う。
- ・どこからが「いじめ」なのかわかっていない。いじめに対する意識を変える必要がある。意識改革！
- ・相手の気持ちを考えること、気持ちを伝え合うことがいじめ防止につながる。

栄区 8月29日(金) 栄区役所

各グループで話し合われたこと まとめ



【実践発表】「いじめをしない自分であるために」～つながる、広げる、いじめの未然防止の輪～

- ・ いじめをとめることはできるのか？見たときにどうするか？止められないのはなぜか？
- ・ 生徒会がつくるのではなく、みんなでつくっていかないと意味がない。
- ・ ルールの見直しができるよう先生たちにもお願いしたい。
- ・ グループになじめない子を一人にしない。
- ・ 学校がきれいだと心もきれいになるよね。

【協議】 学校に取り入れたいことや生徒会・児童会で話し合いたいこと

- ・ 親しみやすく耳なじみのよいスローガンを立てたい。
- ・ 生徒会だけで取り組みを考えるのではなくみんなの声を反映できるように校内アンケートを活用したい。
- ・ あいさつ運動の際に、一言添える取り組みがいいと思った。一言添えることで会話のきっかけになると思う。
- ・ 意見を言いやすくするためには、意見箱は匿名で提出できるといいと思う。
- ・ 安心できる環境づくりのためには、お互いのことを知る必要があると思う。よい所見つけなどの取り組みを実施してみようと思う。



港北区

8月29日(金)

横浜市城郷小机地区センター

各グループで話し合われたこと まとめ



協議① 人はなぜいじめをしてしまうのか。

- ・ ストレスや自覚がないことが理由だと思う。
- ・ 自分はいじめていると思っていないけど、相手はいじめられたと思っているかもしれない。相手の気持ちが見えないから、正直分からない。
- ・ 陰口に友達が共感してくれたとき、共感されると嬉しいけど、そこからいじめになることもある。
- ・ 話がかみ合わないなど、相性が悪いといじめをしてしまうかも。
- ・ ノリと流れに逆らうには勇気がいるから、いじめをしてしまうのではないかな。
- ・ いい空気より、悪い空気の方が流れやすい。

協議② 相手に嫌な思いをさせないために、どんなことを心がけると良いですか。

- ・ 自分が思っていることをしっかり伝えることが大事。
- ・ 相手のよいところや自分との共通点などを知って、この人なら大丈夫と思える関係をつくる。
- ・ 自分の行動に責任をもつ。
- ・ コミュニケーションをとるとき、否定しないで聞く。親しき中にも礼儀あり。
- ・ 相手のダメだと思うところを前向きな言葉に転換できるとよい。
- ・ 一人ひとり違うのは当たり前。価値観を押し付けないようにする。
- ・ 言葉を交わすとき、相手の顔ではなく、相手の心と会話するようにする。



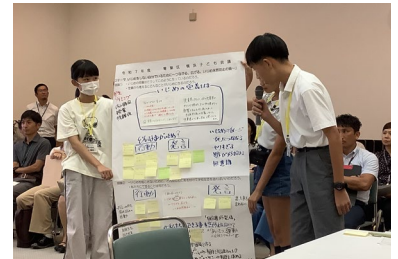
青葉区 8月29日(金) 青葉区役所

会議が始まった直後は、緊張気味だった子どもたちでしたが、アイスブレイキング（後出しじゃんけん）を行うと、会場のあちこちから子どもたちの笑い声が聞こえ、和やかな雰囲気です話合いに入りました。



各グループで話し合われたこと まとめ

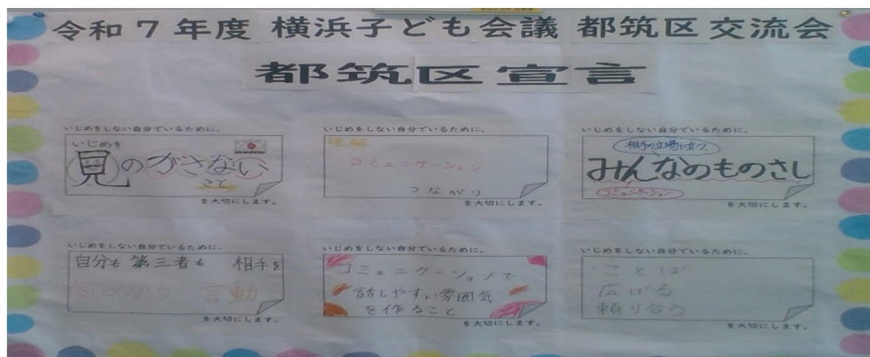
- 協議① ・ いじめの定義はどうしてこのようになっているのだろう。
- ・ 定義から考えるとどんなことがいじめになるのだろう。
 - ・ どこからどこまでがいじめなのか、ラインをはっきりさせて、苦しんでいる人に寄り添うため。
 - ・ 定義を広めれば救われる人が増える。また、ふざけている人が気付ける機会にもなる。
 - ・ 相手が嫌がっていたらいじめになる。
 - ・ 「いじり」と「いじめ」の違いは何だろう。境界線が難しい。でも心の中では嫌な思いをしているかもしれない。「いじり」を止める。
 - ・ 第3者の視点が大切。



- 協議② ・ いじめを起こさないために、どんなことに気を付けて学校生活を送ればいいのか
- ・ 私たちにできることは何だろう
 - ・ みんなが楽しめる遊びを大切にする。
 - ・ 挨拶をするとコミュニケーションが生まれる。あいさつ運動は全校でやれること。学校でいい雰囲気をつくるといじめが起これにくい。これが未然防止。相手を知るためのレク（ほめほめじゃんけん、何でも発表会など）を行うのもひとつ。
 - ・ 傍観者にならない。一人では難しい。そんなときは、先生や他の人に言う。信用できる人になる。
 - ・ 「大丈夫？」などの声をかける。
 - ・ いじめの定義をみんなに知ってもらう。
 - ・ 自分と真逆の人がいるのは当たり前。コミュニケーションのとり方に気を付ける。自分の行動にも気を付ける。全員と合う訳ではない。苦手と思う相手との距離感を考える。
 - ・ 大人の人の力を借りて、いじめのない世界、中学校生活を送ることが大切。
 - ・ 出た意見を具体的に行動にうつして、考え続けること。これがこの会議の意味。今日のこのグループでも頑張っていこうとなった。

都筑区 横浜子ども会議 8月29日(金) 都筑区役所

ブロックごとの発表・取組内容、成果や反省、今後の見通し



荏田南小・茅ヶ崎東小・南山田小
・荏田小・北山田小 ブロック

- つづやき BOX,思いやりポストなど他の学校の素晴らしい取り組みを聞くことができた。
- 相手が嫌と思ったらいじめになるからその相手の立場になって考えてから言葉を言った行動しようと思いました。

つづきが丘小・牛久保小・勝田小・すみれが丘小 ブロック

- 各校それぞれの対策や取り組みを知りました。いじめられた側といじめた側どちらにも寄り添うことが大事だともおもいました。
- 思いやり大作戦や交流などをして話しやすい環境を作っていきたい。

川和東小・荏田東第一小・山田小
折本小 ブロック

- シュウマイじゃんけんのおかげで緊張がなくなり、コミュニケーションもとれました。学校の人達に教えたらいじめは減ると考えました。
- 冷静に考えて相手の立場に立って考えたいと思いました。

中学校ブロック
早淵中・都田中・東山田中

- 小さなことでいじめに発展してしまうことを学び、良かれと思ったこともいじめに発展することに驚いた。
- 目安箱の設置、ポジティブウィークや挨拶運動などの元気づけなどをして、コミュニケーションをとってほしいと思う。
- いじりといじめの違いは、相手が嫌と言えるか言えないか。

中川中・中川西中
川和中・荏田南中・茅ヶ崎中

中川西小・都田小・茅ヶ崎台小・中川小

- 安全宣言やつづやきポストなど、話やすい雰囲気を作るなどしてみたい。
- 安心して相談できる場を作らないと、いじめがわからないことを学んだ。地域の学校との交流会をもっとふやしてほしいです。



都筑小・東山田小・都田西小
川和小・茅ヶ崎小

- いじめについて思っていることは人それぞれだと思った。
- ポスター作りや今日、話あったことを学校で伝えたい。また、都筑区宣言を心がけながら生活していきたい。

